

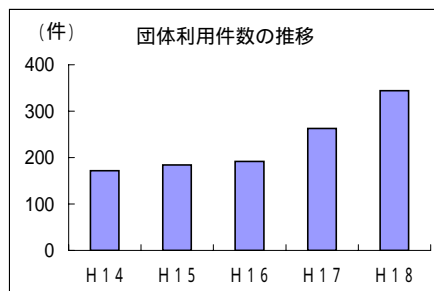
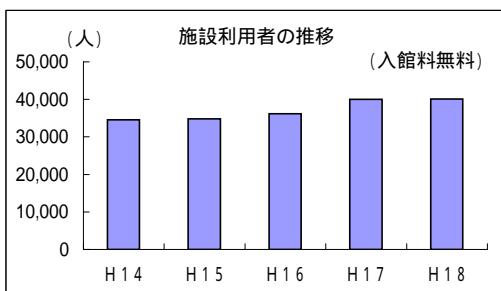
## 福井県自然保護センター(1/2)

「郷土の自然を感じたい、自然保護センターは知りた、そして考えたい」  
 そんなあなたを応援します。

所在地	大野市南六呂師169-11-2		
設置年月日	平成2年7月12日		
施設の種類	展示・体験施設	施設管理主体	県
設置の目的	自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の向上に寄与することを目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	(本館) 木造・鉄筋コンクリート混構造3階建、延2,111㎡ (観察棟) 鉄筋コンクリート3階建、延418㎡ (本館) 展示場、レクチャーホール、工作室 (観察棟) プラネタリウム室：定員44名、天体観測室：80cm反射望遠鏡		
職員数	職員7人 非常勤嘱託2人 アルバイト2人 計11人		

### 利用状況等

	H14	H15	H16	H17	H18
利用者数(人)	34,526	34,844	36,136	40,023	40,115
(本館)	19,426	20,746	22,905	24,728	23,337
(観察棟)	15,100	14,098	13,231	15,295	16,778



利用状況の推移	平成18年度の本館、観察棟の利用者数については、17年度と同様の約4万人でしたが、団体による利用件数が増加しています。これは、日本一星空観察に適した空として紹介されたことや、保育園、小学校等へのセンターの利用案内の浸透によるものと思われます。 また、当センターが県内各地で開催している、自然観察会、自然講座への参加、コウノトリ講演会、コウノトリ展への来場者については、合計で2千名を数えます。 このほか、自然保護センターのホームページへの年間アクセス数は約4万件を数えています。
---------	---

### 施設の特徴

#### センター本館(展示)

地域の自然の素晴らしさ、楽しさを発信することはもちろん、自然環境と自然保護を取り巻く国内外の情勢の変化に合わせ、今後の自然保護のあり方について学び考える展示内容となっています。

とくに、世界的な課題となっている生物多様性保全の問題について重点的に取り上げています。



#### 観察棟

3階：天体観測室(県内最大、北陸で2番目の大きさの天体望遠鏡)

2階：野外観察室(360度のパノラマ、大型双眼鏡等7台設置)

1階：プラネタリウム室(定員44名、スクリーン直径6.5m)



#### 調査研究事業

自然環境の状態を把握し、保護の基礎資料とするために、各種調査研究を実施  
 (クマの餌となるブナ科樹木の堅果生産量把握に関する調査研究、渡り鳥保全調査  
 有害鳥獣分析状況調査 他)

自然保護センターホームページ URL <http://www.fncc.jp/>

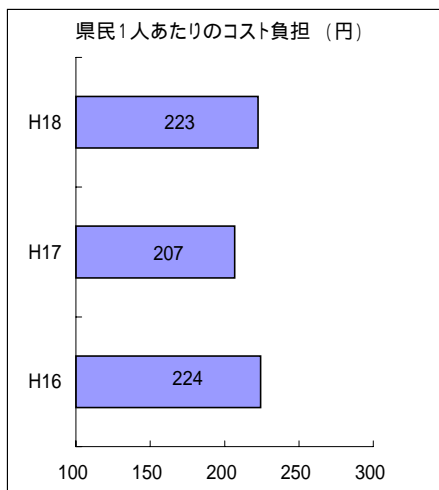
### 平成18年度の特徴について

事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GPSを利用したクマの行動調査(ツキノワグマ広域調査事業関連調査)(1,485千円) ツキノワグマの出没予測を含む保護管理施策の基礎資料とするため、首輪型GPS受信機を用いてクマの行動調査を行いました。クマの行動圏の広さや好む環境、一日の行動パターンなどについて解析を行いました。</li> <li>・ブナ科樹木の堅果生産量把握に関する研究(ツキノワグマ広域調査事業関連調査)(151千円) ツキノワグマの生息環境把握の基礎資料とするため、餌となるブナ科樹木の堅果(ドングリ)生産量を調査するとともに、堅果生産量の予測についても研究を行いました。</li> <li>・里地里山の保全、普及に関する事業 (101千円) コウノトリをシンボルとした講演会や特別展を開催しました。(1,876名が来場)</li> <li>・大型野生動物の放獣に関わる指導協力 (804千円) ツキノワグマが大量出没したため、40頭について麻酔処置を伴う保定などの放獣の指導協力を行いました。</li> </ul>
------	---

# 福井県自然保護センター(2/2)

## 行政コスト計算書(平成18年度) (単位:千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	73,767	40.4%	102.8%
	退職給与引当金繰入	455	0.2%	216.7%
	計	74,222	40.6%	103.1%
物にかかるコスト	物件費	33,301	18.2%	81.8%
	維持補修費	18,735	10.3%	759.1%
	減価償却費	53,602	29.4%	100.1%
	計	105,638	57.9%	109.2%
その他	公債費(利子)	1,401	0.8%	97.5%
	その他	1,345	0.7%	皆増
	計	2,746	1.5%	191.1%
合計		182,606	100.0%	107.3%
収入	利用料等収入	7	0.0%	77.8%
	その他収入	438	0.2%	102.1%
	一般財源	182,161	99.8%	107.3%

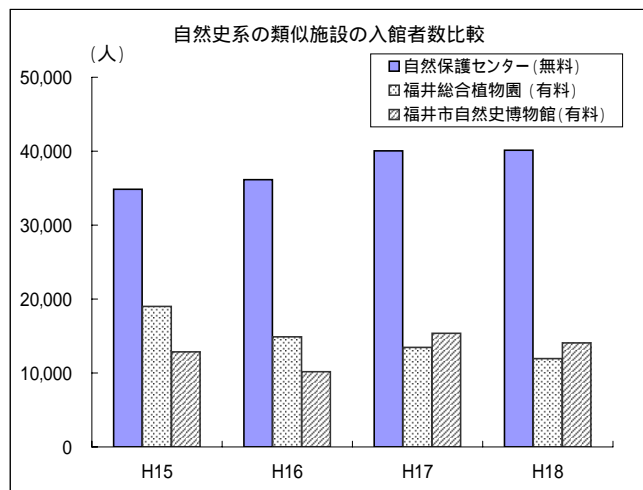


## バランスシート(平成19年3月31日現在) (単位:千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	638,910	92.5%	固定負債	240,313	95.1%
うち本館建物	477,091	92.4%	うち起債残高	184,628	93.5%
うち周辺施設	114,462	92.0%	うち退職手当引当金	55,685	100.8%
うち展示品等	41,401	91.2%			
投資等	0	-	流動負債	12,781	100.0%
流動資産	0	-	正味資産	385,816	90.7%
計	638,910	92.5%	計	638,910	92.5%

## 主な指標 (単位: %、円/人)

	H18	H17	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	781	842	92.8
県民1人あたり将来負担額	294	308	95.4
世代間負担率	60.4	61.6	98.1



福井市総合植物園は、H18年度中に40日間の臨時休館あり

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>人にかかるコストが全体の4割とやや高めですが、これは自然観察や天体観察、傷病鳥獣保護などの指導普及、各種調査を行っていることによります。</p> <p>物にかかるコストが全体の6割を占めますが、前年比9.2%増となっています。これは、平成18年度に本館の大規模修繕(外壁塗装、玄関修繕)を行ったことによります。(17百万円)</p> <p>この結果、県民1人あたりコストは、前年比7.7%増加しています。</p> <p>資産のうち、本館が約75%、周辺施設が約18%を占めます。また、展示品の7割は天体望遠鏡やプラネタリウムに関する設備等になります。減価償却が進んだことで資産の規模は7.5%減少しています。</p> <p>平成14年度に本館設備の更新を行っており、その際に借入れた起債残高が約2億円あります。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>展示事業 (自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開)</p> <p>資料収集事業【H19予算額:約1百万円】 (自然に関する標本や文献、視聴覚資料等の収集保管)</p> <p>指導普及事業【H19予算額:約1百万円】 (自然を学び、自然と共存しようとする動機付けの場の提供)</p> <p>研修養成事業【H19予算額:約1百万円】 (自然保護に関心を持つ県民を育成)</p> <p>調査研究事業【H19予算額:約3百万円】 (自然環境の把握、保護の基礎資料とするための調査、研究を実施)</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境保護、生物多様性保全が世界的な課題となる中、自然保護行政の一端を担う当センターの機能強化が必要です。</li> <li>自然保護思想の一層の普及のため、HP、マスコミなどを活用した情報発信のさらなる強化が必要です。</li> <li>より多くの方に自然保護についての理解を深めてもらえるように、企画(観察会、研修等)内容の充実が必要です。</li> </ul>
今後の事業方針取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コウノトリをシンボルとした里地里山の保全、普及に関する講演会等や生物多様性保全に関する調査の公表など自然保護思想の普及を更に進めます。</li> <li>・県民への情報提供、ホームページの充実等を進めます。</li> <li>・自然観察会等のイベントに関しては、自然観察指導員の会等と協力してより充実したものにしていきます。</li> </ul>